

『浦幌町郷土博物館報告』発刊のことば

浦幌町郷土博物館長 野 沢 貞 男

浦幌町郷土博物館は、昭和44年6月1日北海道100年および浦幌町開基70年を記念して建設され、開館以来「開拓記念物」・「考古」・「自然科学」・「郷土資料」の各部門を主体に幅広い資料収集活動を続け現在にいたっております。

十勝地区にあっては、上士幌町ひがし大雪博物館とともに最も古い博物館園施設として発足して以来、各市町村に博物館・郷土館・郷土室等開設の動きが高まり、最近では上川郡清水町に「清水町酪農記念館」がオープンするなど、日増しにこうした動きも活発になっている状況であります。

こうした状況のもとに、本館では、十勝管内各博物館園にさきがけて、博物館発行定期刊行物の発刊準備をしてまいりましたが、このほどようやく準備も整い名称も『浦幌町郷土博物館報告』として発刊の運びとなりましたことは、私の最も喜びとするところであります。もとより、こうした出版事業は博物館の基本的業務として博物館法第3条にもうたわれているところでありますが、近

年来各地に建設されている博物館・郷土館・郷土室等の諸施設にあっては、博物館の基本的な柱である資料の収集・展示・保管・研究の4つの部門のうち「研究部門」を欠くことが多く、将来に残された問題として検討されているのが現状であります。

本館ではこうした現状を微力ながらも打破し、研究部門の充実をこの『浦幌町郷土博物館報告』に託し、将来の発展を期して発刊するものであります。博物館は従来から古い物ばかりを集めた所という暗いイメージが一般的でありますが、今こそ新しい時代感覚を先取りしたフレッシュな感覚が博物館園業務の中に求められており、我々博物館園職員も大きな目を開いていかなければならぬと考えています。

この『浦幌町郷土博物館報告』が、本館の発展の一歩として記憶され、皆様のお役に少しでもたてば幸いと考え、発刊のことばといたします。

目 次

P 2	『浦幌町郷土博物館報告』発刊のことば	野 沢 貞 男
P 3	浦幌町郷土博物館の資料と分類基準について	後 藤 秀 彦
P 4	浦幌町の発掘調査された遺跡	後 藤 秀 彦
P 9	「しりょう」	後 藤 秀 彦
P 9	博物館日誌より	
P 10	受贈図書 編集後記	

表紙 浦幌町郷土博物館全景